

國學院大學學術情報リポジトリ

2021年度国際研究フォーラム「日本の宗教文化を撮る」報告書

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2025-05-21 キーワード (Ja): NDC8:161.3 キーワード (En): 作成者: 國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002001631

カジュアルに真面目に、映像（映画・ドラマ・番組）で伝える神社

山咲 藍

（映像制作会社スタジオブルー脚本家、プロデューサー）

はじめに

2021年12月、国際研究フォーラム「日本の宗教を撮る」というテーマでお話させていただいた。これはその内容の一部をまとめ直したものである。

研究者ではない私がこのような機会をいただいたのは、2018年1～2月に放送したNHK Eテレの『趣味どきっ！』という番組で、神社をテーマにした『福を呼ぶ！ニッポン神社めぐり』という全8回のシリーズを制作したことに始まる。國學院大學の平藤喜久子先生に出演、監修で協力していただき、番組は好評。第2弾として『幸せ運ぶ！ニッポン神社めぐり』（2019年12月～2020年1月放送）を制作した。神社関係者の方々が多く視聴してくださったという話も、平藤先生を介して伝わってきた。「うちの神社は撮影してくれないだろうか？」という声もあったと聞く。これは、番組の内容が評価されたということも大きいと思うが、制作者側が撮影対象である、それぞれの神社と丁寧にやり取りを行い、ルールを守り、様々な配慮をして番組を制作したことも大きかったのではないかと考えている。実際、ある神社の担当者と話をした際、他の番組の撮影では、約束の時間になっても来ない、連絡が直前にくる、荷物を放置したまま忘れて帰る、などのことがあり残念な気持ちになったとの話を聞いた。映画やテレビで映像が流れることにより、その場所の認知度が上がったり、お客さんが増えたりするメリットが撮影対象にはあるが、撮影はこちらがお願いしている立場であり、撮影場所に迷惑をかけないというのは基本中の基本である。神社に限らず、映画やドラマの撮影でも決まりを守らない、失礼な行為を繰り返すといった過去の行為により、撮影の許可がおりなくなった場所が少なからずある。そうならないため、実は私たちが見ている映像には「撮る前」と「撮った後」という見えないたくさんの配慮が含まれている。では、どのような配慮が行われているのか。その具体例を挙げてお伝えしてみようと思う。

また、神社を「撮る」だけではなく、ドラマや映画の撮影に神社は欠かせない存在だ。撮影場所として借りる場合も多々あるが、撮影しなくても精神的な関わりがあるので

ある。それはいったい、どういう意味なのか。今回のテーマとは少しズレるが、その辺りもまとめさせていただく。とは言っても、他の先生方のように論文のような文章は書けないので業界の裏話を聞くような感覚で、画像やリンク先の動画を見ながらカジュアルに読んでいただければと思う。

1. 神社をテーマにした番組を制作しよう！

まずは『ニッポン神社めぐり』という番組の成り立ちを説明させていただく。それまで神社に特別な関心はなかったが、2017年に制作した映画『茅ヶ崎物語～MY LITTLE HOMETOWN～』（図1）という作品を手掛けたことがきっかけで、神社についてもっと知りたいと思うようになった。劇中で寒川神社や茅ヶ崎にある厳島神社などを取り上げ、神社の成り立ちや神様について調べていくと、他の神社や神様についても興味が湧いてくる。そこから、番組に企画を提案。『趣味どきっ！』という番組は主に30代以上の女性視聴者が多く、専門的すぎる内容は好まれないとのことだった。そこで、関心を持ってもらいやすい“ご利益”を切り口に、ご利益に合った神様を神話とともに紹介。日本人の生活に密接に関わっている神社と神様をカジュアルに学べる内容を考えていった。番組の内容を監修してくれる先生を探したところ、平藤先生に行き着いた。番組の司会進行、視聴者と一緒に学んでいく人として、MCは南海キャンディーズの山里亮太さん（以下、「山ちゃん」）。実は山ちゃん、お守りや御朱印帳を日常的に持ち歩くほど、神社好きな人であった。そこに毎回、ゲストとして俳

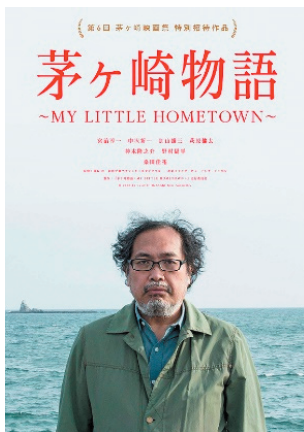


図1 映画『茅ヶ崎物語～MY LITTLE HOMETOWN～』（2017）監督：熊坂 出
加山雄三や桑田佳祐をはじめ、数々のミュージシャンや文化人を排出した芸能の地、茅ヶ崎の秘密をドキュメンタリーとドラマを織り交ぜた映像で見せる音楽探訪記。桑田の学生時代を野村周平、友人の宮地を神木隆之介が演じた。

予告編 URL <https://www.youtube.com/watch?v=oQYc3WGIOW&t=1s>

優やタレントが加わり、神社をめぐりながら様々なことを学んでいく。

芸能人は神社好きな人が多いようだ。仕事で様々な土地に行くことが多いことも関係していると思うが、芸事という仕事柄なのか、「縁起」や「ご利益」に関心の高い人が多い。芸能・芸術にご利益があるという京都の車折神社（正確には車折神社の末社である芸能神社）に多くの芸能人が訪れることを見ても分かるだろう。平藤先生と打ち合わせを行い、どの神様を取り上げるか、どの神社が良いかを決め番組の制作がスタートした。（図2）



図2 『趣味どきっ!』はテキストが連動して発売される。テキストの監修も平藤先生が行った。写真は第1回目の撮影場所、東京大神宮にて、山里亮太さんと平藤先生。

2. 神社を「撮る前」の配慮

テーマとなるご利益、紹介する神様と神社を決めたら、撮影したい神社にまずは電話で連絡をする。番組には神職の方にも出演していただいたので、担当の神職さんと丁寧にやり取りしていった。打ち合わせは毎回楽しい。当然のことかもしれないが、神職の方は奉職しているお宮について誰よりも詳しく、愛情をもって話をしてくれる。ついつい打ち合わせ時間が長くなることも多かった。「撮る前」すなわち、準備段階での主な配慮を箇条書きにする。

・取材対象者との関係をつくる

神社に電話などで問い合わせの連絡をした後、番組の概要、内容等を記載した企画書を持参し、神社担当者と必ず打ち合わせを行う。

打ち合わせの際には撮影してはいけない場所、逆に神社として是非、案内したい場所、気をつけて欲しい表現なども細かにヒアリングする。担当者との打ち合わせ後、具体的にどのような番組の流れにするかを記載した「構成」を作成。構成は平藤先生、NHKのプロデューサーのチェックを受け、それを持って再度、神社担当者

と対面で打ち合わせするか、メールや電話でのやり取りを行う。

もちろん、撮影した映像を編集する段階で100%構成通りの内容にならないこともあるが、書面にして確認してもらうことは誤解や認識の違いを生まないため大切である。

・視聴者や制作側への配慮

神社や御祭神に関する内容は、歴史や出典が明確ではない場合が多い。そのため、「～です。」と言い切ることはできる限り避け、「～と言われている。」「～という説もある。」という表現を用いるよう、出演者の発言やナレーションなどでも気をつけた。神社独自の歴史や伝承であれば、そのことを明確に説明することとした。それは、制作側はもちろん、撮影に協力していただいた神社へのクレーム対策でもあり、視聴者に間違った情報を発信しないための当然の配慮でもある。テレビ番組などの映像は想像以上に影響が大きいことを忘れてはいけない。

御祭神に関して特筆すると、同じ神様でも『古事記』と『日本書紀』では神話の内容が違っており、片方の書物しか読んだことがない視聴者から「間違っている」と指摘される可能性があることを制作側は想定しなければならない。そのため、番組では基本的に『古事記』の神話を用いて説明することをルールとした。このような内容に関するデリケートな配慮に関しては、平藤先生の監修が非常に重要だった。分かりやすい例として構成の一部を抜粋した（図3）。

■建部大社紹介 VTR／ (30 秒)	パンサー「（答えて）」 平藤「（解説）」 ※建部大社の御祭神は、ヤマトタケルノミコトです。 ※こちらには景行天皇 46 年と書かれています。景行天皇は第 12 代の天皇。今の天皇陛下は、第 126 代ですから、建部大社がとても長い歴史がある神社だとわかりますね！←景行天皇は歴史上の人物とはいいいくので、西暦ではふれないほうがいいです。 パンサー、ゲスト「（リアクション）」 パンサー向井「先生、建部大社のご利益はなんですか？」 平藤「神社のご利益はお祀りされている神様の得意分野です。ヤマトタケルの得意分野、ご利益は『災厄避け』です！」 パンサー向井「なぜヤマトタケルの得意分野が『災厄避け』なんですか？」 平藤「それは神話を学んでいけばわかります！」 パンサー向井「なるほど！」 ●景行天皇 46 年、西暦 116 年に日本武尊を近江の地に祀ったのが草創。675 年にこの場所に移った。←西暦をいうなら、～といわれている、とつける
--------------------------------	--

図3 “構成”の一部抜粋。矢印の後の文（「←景行天皇は歴史上の人物とはいいいくので、西暦ではふれないほうがいいです。」「←西暦をいうなら、～といわれている、とつける」）は平藤先生が指摘してくださった部分。歴史的に曖昧な部分については特に表現に注意した。

3. 神社を「撮る際」の配慮

構成の確認が終わり、撮影日が決まると、いざ撮影となる。撮影日は神社側の都合、出演者のスケジュールを加味して決定する。神社側はお祭り、七五三などの参拝者が多い時期や時間帯は避けて欲しいとのことだった。撮影時の主な配慮は以下の通りである。

・撮影場所への配慮

入ってはいけない場所、撮影してはいけない場所等、事前に説明を受けた注意事項を守ることが基本である。これは、神社にかぎらず、ドラマや映画の撮影場所でも同様だ。

通常の撮影場所と異なる特筆すべき点は、拝殿や社殿の撮影に関する指示がある場合があること。例えば、真正面や、拝殿前の階段を上がった場所からの撮影禁止、接近やズームはしないよう指示のある場合があった。これは、神様に対する配慮だと言っても良いだろう。神聖な場所のため、カメラを向けること自体を禁止している場所があることもある。例として下図（図4、5）を参照。



図4 東京大神宮。拝殿を真正面から撮影すること、ズームして撮影することは避けるよう指示があった。



図5 伏見稲荷大社。階段の下からのみ撮影可能。

・参拝者への配慮

参拝者になるべく少ない時間等に撮影を行えるよう考慮したが、難しい場合も多々あった。元々、観光客などが多い神社は撮影場所に人が集まり、参拝客に迷惑をかける可能性があったため、人が集まらないよう、声掛けする人員を増やすなどして配慮した。

番組中、出演者は必ず拝殿で参拝する決まりだったが、その際も参拝者と同じ列に並ぶなど、絶対に撮影を優先しないよう心がけた。これも当然のことだが、撮影隊が一般の方に横柄な態度をとり、トラブルになることも稀にあるのでかなり気をつけている。最近はSNS等で拡散されてしまうことも意識しなければならなくなっている。

・神様への配慮？

出演者はもちろん、スタッフも可能な限り、お参りをしてから撮影を行うよう心がけた。気持ちの問題ではあるが、個人的には境内にお邪魔させていただく挨拶は必要だと思い、撮影前のお参りは欠かさず行った。先述した通り、拝殿を真正面から撮らない、接近して撮らないなどの注意事項も神様への配慮に入るだろう。

4. 神社を「撮った後」の配慮

撮影が終わると、撮った映像をいよいよ番組として放送する形に編集していく。この段階はさらに注意と配慮が必要となる。

・プライバシーを守る

情報番組や報道では、背景として一般の方が映り込む場合には、そのひとりひとりに特別な許可は取らない。しかし、特定の人にズームしたり、インタビューしたりする際は番組で用意している出演許可の誓約書に署名をもらう決まりがある。

また、これは撮る際にも注意したが、絵馬や御札などに記載されている個人情報映らないように配慮した。映像を編集する際、画面で見て文字が分かってしまうような場合は、ぼかしを入れるなどの処理を行う。例えば、京都にある安井金比羅宮は“縁切り”の神社として有名である。神社のご利益が“縁切り”という特徴から、絵馬や御札に書かれた内容は特にデリケートなものが多く、撮影時にもそのことを念頭におき、編集の際には不自然でない程度にぼかしを入れた（図6）。



図6 安井金比羅宮の「縁切り縁結び碑（いし）」には願いの書かれた「形代（かたしろ）」（御札）がたくさん貼られている。御札に書かれた内容が読めないような撮影位置、編集を心がけた。

・写真、映像資料の許可

番組では撮影を行っていないが、内容の補足をするため、様々な神社の写真や動画を使用することが多々あった。その際は、各神社に番組で使用する旨の許可を取る必要がある。そこでも、神社ならではの注意事項があり、主なものは社殿や鳥居などにテロップ（文字の情報）を被せないように、というものであった（図7）。



図7 放映時に、鳥居の部分（上図に付した丸印で示した部分）にテロップがかからないよう位置に注意した。

・撮影場所への配慮

一般の参拝者は通常入れない場所、特別な期間のみしか入れない場所、拝観できないものをありがたいことに、番組で撮影させていただいた。しかし、それは前述の通り、神社からの特別な配慮のため、明確な情報のテロップを入れて撮影場所に迷惑がかからないよう気をつける必要があった。例えば、「いつ見れるのか?」「行ったら見れなかった」という問い合わせを避けるためである（図8）。



図8 特別な期間のみ入れる、拝観できるという明確な情報をテロップで入れる。

5. 実は関係が深かった？ 神社と映像業界

ここからは余談になるが、実は神社を「撮る」だけでなく、映像業界は神社と切っても切れない関係がある。それは私たちが「お祓い」と呼んでいる行事のことだ。本来なら「ご祈祷」と呼ばれるものだろう。映像業界における「お祓い」とは、映画やドラマの撮影が始まる前に、撮影の安全を願い、主に監督、主演、プロデューサーが神社でご祈祷を受ける恒例行事のことを指す。今回、発表にあたり改めて関係者に神社での撮影や「お祓い」についてアンケートを取ってみたので、ここに結果を報告する。アンケートは監督、助監督（監督の補佐をする役割）、制作部（撮影場所を探す、食事を用意するなど、撮影に関する様々なことを仕切る役職）、プロデューサーを対象とした。人数は12人程度。

Q. これまでに神社で撮影を行ったことがあるか

A. ほぼ全員あり

Q. 撮影の際、気をつけたことや注意したことなど

A. ※これに関しては前述した撮影に関する配慮とほぼ同じ回答だった

Q. 撮影とは関係ないときに神社へ行く習慣があるか

A. 全体的に、日常的に神社へ行く習慣がある者は少なかったが、人によっては習慣として毎月必ず行く人もいた

Q. 撮影前の「お祓い」は必要だと思うか。また、その理由

A. ほとんどのスタッフが「必要だと思う」と回答。その理由は以下の通り

- ・お祓いをやった方が撮影が無事に終了する確率が高い気がする
- ・気分的に安心
- ・安全や天候など、人の力だけではどうにもできないことがある
- ・お祓いを行わなかった作品で交通事故が起きてしまった
- ・人が亡くなる内容や、危険を伴う撮影がある場合は特に必要だと思う
- ・地方で撮影する際に地元の神社でお祓いをすることは、地元の方々への配慮でもある
- ・撮影で何かあったとき、「お祓いをしなかったから……」と思ってしまう
- ・お祓いにはスタッフが集まるので、撮影前に改めて結束力が高まる気がする

七五三や厄祓い、初詣と同じように気分的な問題が大きいのが、通年撮影を行っている私たちには切実な問題でもある。

今回の発表後、このアンケートについて面白い指摘があった。

「撮影の“安全祈願”(ときに作品のヒット祈願も含んでいる)というが、皆が求めているのは“祈願”なのか、“祓い”なのか、どちらなのだろう」

確かに、本来は「ご祈祷」と言われる撮影の安全祈願、すなわち「願う」行為を私たちは「お祓い」と呼ぶ。そして、アンケートの結果からも分かるように、気持ちは「事故が起きないように」「悪天候で撮影が延期などしないように」「悪いことが起きないように」など、何か目には見えない悪いモノを撮影から祓い、無事にクランクアップを迎えたい！という気持ちが強いようだ。だから私たちは「お祓い」と呼んでいるのかもしれない。撮影の「お祓い」という習慣がいつから始まったのか、その起源を探ることまではできなかったが、きっと、先人たちも撮影中に事故があったり、台風などの悪天候に襲われたりといった、予測不可能な自体に見舞われてきただろう。そういった人の力ではどうすることもできない、目に見えない“何か”を祓う必要性が「撮影前のお祓い」という行事を生み出したのかもしれない。

ちなみに、新型コロナウイルスによる「お祓い」への影響も当然ながらあった。拝殿に人が密集してしまうことは、神社側も配慮していたので、撮影スタッフだけ特別扱いしてもらうことはできない。そこで、オンラインを使ったご祈祷が問題ないか、撮影でお世話になった神社の神職さんに相談した。ご祈祷は神職が神様に対して行うため、必ずしもその場にスタッフがいなければならないということはないと助言をいただいた。コロナ禍における、初めてのオンライン「お祓い」。数名は直接神社へ行き、その様子をZOOMで繋ぎ、残りのスタッフは画面越しに「お祓い」を受けるという

ものだ。「そうまでしてやる必要があるのか」と言われると返す言葉もないが、前述のアンケート結果を見ていただければ、私たちの気持ちも分かっていただけるだろう。

おわりに

新型コロナウイルスによるパンデミックが起き、どの業界も大きな打撃を受けた。映像業界の精神的なダメージはかなり大きいものだったと思う。『世界中がこんな大変なことになっているのに、映画やドラマをつくっている場合なのか』。それは、3.11が起きたときも心に大きくのしかかった問題だった。「ドラマなんて再放送だけ流せばいい」「大勢が集まって撮影し、感染を広げている」そんな世間からの声に皆、傷ついた。“不要不急”という言葉が今でも嫌いである。映像はときに悪用されることもある。だが、人を楽しませるもの、救うものであることも信じている。フィクションによって幸せな世界を見せることも、希望を与えることもできるし、過去や未来、今起きている問題を表現することも自由自在だ。映像、エンタメは人間にとって必要なものだと強く信じている。

また、他の先生の発表にもあったようにドキュメンタリーは映像で「記録」することの価値も忘れてはいけない。そういった意味で私が手掛けた神社の番組は、エンターテインメントとして見ている人々を楽しませ、神社を記録するといった2つの面を併せ持つ大事な映像になったのではないだろうか。

最後に今回、研究者ではない私に、このような発表と出会いの機会をいただき、平藤喜久子先生にこの場を借りていま一度、感謝を伝えたい。ありがとうございました。

『趣味どきっ!』の番組以外で手掛けた神社関連の動画リンク

- JSPS 科研費 JP18H00615 「日本宗教教育の国際的プラットフォーム構築のための総合的研究」

神社に行こう 1 神社の中にあるもの ときわ台天祖神社（東京）

<https://youtu.be/wWiTGCBtyo8>

神社に行こう 2 神社に関わる人々 小野照崎神社（東京）

<https://youtu.be/LV2II-xls-A>

神職を志す学生の日常

<https://youtu.be/ZOKW-iNB4kI>

※上記3つは平藤先生とのプロジェクト

●小野照崎神社「つくえ守り」紹介動画

<https://youtu.be/28LPHASiMVM>